

## 第三者意見



グローバル・コンパクト・  
ジャパン・ネットワーク  
事務局長

宮本 武氏

この報告書において、高速道路という重要な社会基盤を支える企業としての社会的責任への認識と決意が随所に盛り込まれているという印象を受けました。特に東日本大震災への対応と、これを踏まえたさらなる防災体制の強化が記載されていた点には好印象を得ました。

その一方で、次の四つをご考慮いただければと感じました。一つ目は、UN-GC10原則を如何に経営の中に統合させ、社内に浸透させていくかについての言及があれば良かったと思います。

二つ目は、重要性および優先度をより明確にされた方が良いのではという点です。「すべてのステークホルダーへの約束を果たす」、「5つのステークホルダーを特に重要なもの(中略)その期待を的確に把握し、事業活動のプロセスにフィードバック」という記述が見られますが、矛盾しているように見えますので、整合が取れるような記述にされたほうがよいと思います。経営資源には限りがある一方でステークホルダーには多様な期待があるかと思しますので、これらを如何に調整

し貴社らしいCSRを展開すべきかについての明確な意思を持たれてはと感じました。

また、中期経営計画2015が4月に発表され、5月に大きな三つのテーマについてステークホルダーとの意見交換会を実施されていますが、できればこういった対話は計画策定のプロセスの中で実施され相互のせめぎあいの中で落としどころを探り、これを計画に反映させることができればなお良かったのではと感じました。

三つ目は、「100%の安全・安心の追求」を掲げられ随所に安全・安心に関する記述がありますが、ステークホルダーごとに記述されるよりも最重要テーマとして一カ所にまとめた方がよりわかりやすいと感じました。なお「100%の安全・安心を確保します」という記述については非現実的だと思いますので、「追求」に統一された方がよいと思います。

四つ目としては、環境が「社会」というステークホルダーの中で取り扱われていますが、これはすべてのステークホルダーに関わる事項ですので「社会」と並ぶ概念として取り扱われた方がよいと感じました。また、特に強調されている「低炭素社会の実現」については、対話の中でもご指摘があったように走行車両からの排出が重点課題と思しますのでP68の豆知識でご紹介されたような観点での具体的なご対応についての報告があれば、より良かったのではと感じました。

以上纏々述べましたが、CSR経営の実現とその中の10原則の実効の一層の進展を願い、第三者意見の結びといたします。



公益社団法人  
日本消費生活アドバイザー・  
コンサルタント協会  
常任理事・環境委員長

辰巳 菊子氏

3月には想像を絶する大災害と人災が、一瞬にしてあまたのつましい暮らしを根こそぎ絶やしました。持続可能な暮らしが絵空事とならない未来を望む時、消費者は社会の重要な構成員として、ともに未来の暮らしをデザインしていかなければならないと思っています。今、消費者にできることは、持続可能な暮らしにつながるモノやサービス、そして情報を誠実に提供し対話していこうとする事業者とともに、進むべき方向を違えず着実に前に進むことだと思います。

今年は、この企業とともに歩むことが、消費者の望むつつがない暮らしをデザインすることにつながるのだろうかと考えつつ、NEXCO西日本グループのCSR報告書を読ませていただきました。

今年のトップメッセージの基軸は「未来への新たな価値の創造」です。3,000km以上という広大な高速道路のインフラを余すことなく利用することで新たな価値創造の再生産となる。そのためにステークホルダーとの対話を通じて一歩を踏み出し、一緒に新たな価値を創造していく。それがNEXCO西日本

のCSRであり、グループの中期経営計画2015であると語られています。これは冒頭に述べた消費者とともに未来の暮らしをデザインしなければならないという思いにまさに合致します。ハイライトにある安全・安心の追求、事業創造委員会の発足、エコエリア構想など、いずれもステークホルダーを巻き込むことで大きくスパイラルアップするものです。2度にわたるステークホルダーダイアログからは、期待される企業としての重みをしっかりと受けとめられたと思います。これから新たな価値創造のプロセスにどのように組み込まれるのか、きちんと見えるようにするという課題が残されています。これとは別に、外部の方々との対話をするための緻密な準備に実は思わぬ価値があり、担当責任者が自社のCSRを深く理解する最短の道となったと想像されます。

多くの事業活動はなかなか外には見えないもので、お客さまからのご意見も施設管理の範囲に留まっているようです。そんな中、広告を使った事業創造アイデア募集は企業を知るとても良いツールになったと思います。また、太陽光発電パネルや電気自動車の急速充電設備なども百聞は一見に如かずで、普及することでもっと身近なものになることを期待します。また、私は水のことも気にかかります。広大な道の地下が大きな水瓶なんて夢がありますね。

昨年、現在のお客様の声は聞くことができても、未来の子どもの声は聞くことができないと書きました。新たな価値の創造で、未来からの子どもの声を聞こうとする姿勢がほんの少し見えて来たかなと思っています。

## 第三者意見をうけて

今回、昨年に引き続き消費者の視点からCSRのあり方に詳しい辰巳先生と、新たに国連グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワークの宮本事務局長に第三者意見を賜りました。この場を借りて、深く御礼申し上げます。

辰巳先生からは、今回のステークホルダーとの対話が、期待される企業としての重みを認識する機会になったこと、さらに今後、価値創造の過程にもステークホルダーとの対話を組み込み、見える化する課題があることなどのご指摘を頂きました。また、事業創造アイデア募集は企業を知る良いツールにもなったとの評価も頂きました。

宮本事務局長からは、グローバル・コンパクト(GC)10原則

の経営への統合や社内浸透の課題、ステークホルダーとの対話は計画策定のプロセスの中で実施し計画に反映されればなお良かったこと、また、環境は「社会」と並ぶ概念として取り扱うべきというご意見を頂きました。

お二方からご意見を頂いたステークホルダーとの対話は、今回初の試みとしてテーマ別分科会形式で開催し、社外の多様なご意見をお聞きし、直接対話を通してCSRの理解を深めるよい機会になりました。今後は、その成果を事業の計画策定に反映できるよう、開催時期やテーマ設定の見直しを図って参ります。

次に、当社は2009年12月にGC10原則の支持を表明し、分科会等の活動に参加しています。また、グループ役員・社員がさ

まざまな局面で実践すべき指針として「NEXCO西日本グループ行動憲章」を定めており、その内容はGC10原則と合致しています。今後は、GC分科会への参加や具体的な取り組み内容、GC原則と行動憲章の対応表をレポートへ掲載するなどにより、社内外への浸透を進めて参ります。

環境保全に関して、今回のレポートでは「地球環境の保全」として包括的に位置づけ(P12)、特集やダイアログなど多くの紙面を割いて取り組みを紹介しましたが、その構成や記述内容をより分かりやすくするため、今後、改善に努めたいと思います。

このほか、専門家のお立場から有益なご意見を数多く頂戴致しました。今後は、これらを参考にしながら、本レポートを使った

社内外での議論を深めます。さらに、企業からの情報発信を行いながら社外とのコミュニケーションを積極的に図りつつ、社員一人ひとりにCSRの考えを浸透させ、グループ全体でCSR活動を推進して参ります。



広報部長  
中根 正治